

地域で支える認知症 とよやまオレンジプロジェクト

「とよやまオレンジプロジェクト」

本町では、認知症について一人一人が正しく理解し、認知症の方やその家族が地域の中で自分らしく暮らし続けるために、認知症があってもなくても、地域での理解の中で生活を続けていくことができる町づくりに取り組み、認知症普及啓発を行っています。

認知症は脳の病気

「認知症」とは、さまざまな脳の病気により、脳の神経細胞の働きが徐々に低下し、認知機能（記憶、判断力など）が低下して、社会生活に支障をきたした状態をいいます。

新しい認知症観

令和6年に閣議決定された「認知症施策推進基本計画」では、「新しい認知症観」が示されました。

新しい認知症観とは、認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になっても、一人一人が個人としてできること、やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら希望をもって自分らしく暮らし続けることができるという考え方です。

新しい認知症観

【自分ごと、可能性重視、地域で、希望】

- ①自分ごと、向き合う、今ここで
- ②わかること・できることがある
本人が自分で選び・決める（その支援を）
- ③自分は自分、隠さずオープンに
- ④地域の 一員として活躍できる、ともに
- ⑤明るい、伸び伸び、楽しい、希望がある

古い認知症観
【他人ごと、問題重視、疎外、絶望】



広がる見守りの「輪」

「オレンジカフェ認定事業」
認定団体のご紹介

今年度は毎月1回、町内各所にて認知症カフェが開催されています。あいせの里・とよやまの憩・シルバー人材センター・社会福祉協議会など認定団体も増えてきています。今後の開催予定は、広報をご確認ください。



「認知症の方にやさしいお店・事業所認定事業」が始まっています。

認知症を正しく理解し、認知症の方にやさしい接し方や取組みを行っている認定店の申請が始まっています。認定店にはステッカーが目印として掲示されているので、ぜひ探してみてください。



専門的な診断と治療



認知症疾患
医療センター
（済衆館病院）

県が設置する専門の医療機関で、保健・医療・介護の関係機関と連携しながら、認知症がどうかを見極めるための鑑別診断や専門医療相談、医療機関等の紹介、問題行動などへの対応に関する相談を行っています。

早期発見・早期対応が大切

「もしかして認知症かも？」と感じる場面があっても、「まだ仕事に行けるし...」「年齢のせいかな」「勘違いだと思いたい...」などと思う方も多いかもしれません。

しかし、大切なのは早めに相談することです。一人で悩まず、医療機関や地域包括支援センター「あおぞら」などに相談しましょう。小さなことでも気軽に相談することで、不安の解消や早期発見・早期治療につながります。

